

幸せって何だろう？

Happiness is



聖書から学ぶ生きかた

* 使用聖書は全て新改訳2017

聖書を読んでみたいと思いつながらむずかしいと思っている方も少なくありません。クリスマスチャンでもあつても聖書の意味を、全て理解しているわけではないのです。聖書は喜び、悲しみ、怒りや感動などに、誰もが懐く感情のエネルギーを、人生という舞台の主役である自分自身が、どう判断して生きるかの道をエスコートしてくれます。

辛いことよ、悪しき者のはかりことに歩まず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人。主のおしえを喜びとし、昼も夜も、そのおしえを「すさむ人、その人は、流れのほとりに植えられた木、時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える。」
(詩篇11:1-3)

手放す！ ネガティブ思考

感情のコントロール

わたしたちは元々不完全で生まれてきます。日本のごとわざでも「身から出た錆」ということわざがありますが、判断、選択を間違える時もあります。結果、挫折や苦難に直面し、高ぶっていた心が砕かれてはじめて魂の成長となるのです。へり降ったその時が、幸せのスタートラインなのかもしれません。

主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。(詩篇34:18)

赦す

人を赦すことは自分を赦すこと

考え方の相違や、様々な感情の中でぶつかることは人間関係につきものですね。友人、親子、夫婦、親族でも起こります。しかし、自分は悪くないと人を心から赦すことができない魂は、自分を苦しめているのです。人を赦さないことの心の高慢と苦悩の方が、赦すよりもはるかに大きく、それが自らの精神的なストレスとなって疲れてしまうのです。違う角度から見たり、人の良いところを見るとき習慣も解決の鍵になるかもしれません。

互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。(エペソ人への手紙4:32)

過去の自分からリンクを外す

未来の自分とリンクする

自分の中に根付いている古い怒りや憎しみ、恨み、人の芝生と比べた自分の生い立ちや過去などの感情を脱ぎ捨てることごどんなに「自由」に開放されることでしょうか。人間は個々です。「時」は人それぞれ違うのです。新しくなる、それは素敵なお知らせです。

互いに偽りを言っはけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。(コロサイ人への手紙3:9-10)

笑顔は習慣となり糧となる

ポジティブを心にキープ

体調が悪い時や人とのトラブルなどで、自分をコントロールできない感情が押し寄せる時もあります。しかし、悲しいと思う事、辛いと思う事、怒りの感情なども、まず意識を通って感情として表現されます。わたしたちは、知らないうちに潜在意識を作ってしまったてることがあります。人生は点と線、後から振り返ると感謝に変わることもあります。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。
(テサロニケ人への手紙第一5:16-18)

暖かい 教会のクリスマス祝会



今年は残念ながら行うことができませんでしたが、赤坂教会では毎年、クリスマスのお祝い会をミセス(牧師夫人)の愛いっぱいのお料理をいただきながら、劇や賛美とお祈りをしながら過ごします。



I SAVE THE BEST FOR LATER

「GOSPELに見る“幸せ”」

今回は、“Joy” by Whitney Houston という曲の歌詞をご紹介します。“幸せ”を紐解いてみたいと思います。※原曲は The Georgia Mass Choir によるもので歌詞も異なりますので、宜しければご覧ください。この曲のサビで“Joy”は、「甘美で、美しく、魂を救ってくれるもの」としています。そしてAメロでは、その“Joy”とは「神様がこの地上に主イエス・キリストを遣わして下さったこと」だと歌っています。この地上に生まれ、数々の軌跡を起し、私たちの罪を償うために十字架の上で亡くなり、復活して天に昇られたイエス様がこの地上に与えられたこと、そのことが“Joy=幸せ”だということです。

この事実は、既に起きていることですから、これから変わるものではありません。そう、私たちは喜んで受け止めて良い「幸せ=Joy」を、既に手にしているのです。COVID-19の影響で、「出来なくなったこと・不自由になったこと」にばかり気を取られがちですが、このクリスマス(Christmas: イエス様の誕生を記念する礼拝の意)は、是非「既に手にしている幸せ“Joy”」を感じて頂けたらと思います。

蔵本 順

JUN KURAMOTO



2012年にNY・Harlemにある Convent Avenue Baptist Church のクワイヤ: The Inspirational of Ensemble に加入しゴスペルシンガーとして活動開始し、同教会の音楽監督 Gregory Hopkins 教授にヴォーカルを師事する。2015年帰国後、様々なイベント・ライブに参加し Gospel の魅力を広めると共に、Claude McKnight (TAKE6)、Michael Bethany ら グラミー賞受賞アーティストのオープニングアクトやコーラスも勤める。Gospel を通じて、「愛すること、愛されること」の意義を伝える。

歌詞はこちら

<https://genius.com/Whitney-houston-joy-lyrics>



音源はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=dWzTnv45i4A>

